

真宗佛光寺派
大阪教区・
別院だより

大悲

第55号

令和6年(2024年)
10月1日 発行



秋風に揺れるコスモス（大阪市東住吉区、長居公園）

六月十四日藤田徹文師が逝去されました。先生は本願寺派の教学本部伝道院部長などを歴任され、本山佛光寺の布教使を養成する「聞法運動推進員養成研修会」の講師としても二期十年にわたりご尽力いただきました。

広島島の御自坊で行われた通夜・葬儀には推進員時代の教え子が全国より、もう一度「拝顔」をとの思いで駆けつけました。

先生に大悲の会発行の『大悲に照らされてく七人七色法話集』を贈呈させていただいた時、いち早く目を通し、「発刊物を続けることは、結局は自分の勉強になる」と励ましとお褒めの言葉をいただきました。

よく語られていた「阿弥陀さまがバックについておられるので、精一杯生きよ」との旨のお言葉が、今も耳の底に残っています。

親鸞聖人は法然上人にお出遇いすることがなければ、「むなしい人生だった」と述懐されています。あらためて、「人生の師との出遇い」の尊さに感謝です。合掌

（長田 譲）

と う ひ が ん 到 彼 岸



なぜ、生きていますか？

西光寺 すえまつ 寿栄松 しょうけん 正顕

生きるとは

ご門徒に一人暮らしのおばあさんがおられました。私がお参りに伺うと「幼少期、姉は親にかわいがられていたが、私は親の愛情を感じることなく育った。子ども時代には大人の手伝いをするこゝとで、小遣いをもらえることを知り、誰に頼ることなく生きてきた」とよくお話しされていました。

あるとき、お寺の法要におさそいしたところ、遠方にもかかわらずお参りにこられ、熱心にご聴聞されるようになりました。

また、おばあさんは自宅近くの公民館にもよく行かれていました。趣味の編み物をされ、そこで友人ができ、お話しをしたり、作った編み物をプレゼントされたりしていたようです。

以前は一人で生きてきたとお話しされていましたが、自然と周りの人に支

えられ、共に過ごされるようになるにつれ「生かされていることが、なんとも有り難いと感じています」とお話しされるようになりました。

仏さまの願い

私が今、ここに生きているということとは、生まれる前から今に至るまで、常にたくさんのご縁がはたらいてくださっているということです。

仏さまの願いは、大いなる他力の中で生かされていることに気づいてくれよということなのです。

そして、「なぜ、生きていますか？」という問いを通して、自身の歩みを確かめ生きていることといただいています。ご門徒との出会いはこれに気づける一つのご縁で、これからも私自身、確かめながら生きていこうと思ふことです。

先日、大学一年生の娘となにげない会話をしていると「なぜ、生きていますか？」という話題になりました。私も高校生のとき、この疑問をもったことがありました。今思えば、思春期の不安定な感情がそうさせたのかもしれない。大切な問いであることは間違いないありません。しかし、この問いに向き合うことなく私は生きてきたように思います。



如にょ是ぜ我が聞もん

教えに出遇う

相愛大学学長 釈しゃく徹てつ宗しゅう師し



令和六年七月八日、常光寺

様にて紫陽聞信会が開催され、

釈徹宗師より「二河白道の教え」という講題でお話しいただききました。

言葉に血が通う

仏教など宗教の教えは言葉だけでは伝わりません。言葉に経験や体験という血が通わないと伝わりにくいのです。

つまりずっと教えを聞いていたけれど経験や体験を元にした例話を聞くことで初めて腑に落ちて、教えが伝わりや

すくなるのです。

「二河白道」という譬えがあります。中国の隋から唐の時代に活躍された善導という人物が作られたお話です。もしかするとこの物語には善導の人生や仏道を歩まれた自身の姿が投影されているかもしれません。

突如として

その「二河白道」の冒頭に「ここに一人の旅人がいて、百千里の遠い道のりを西に向かつて行こうとしている。しかし

その時、南には火の河、北には水の河が突然現れる。そしてよく見るとその河の間に一本の細い白い道が見えた」とあります。

旅人は教えに出遇い、道を歩もうと決心します。そして突如として周りが見え始めます。その時に初めて、怒りや憎しみを表す火の河や、貪りや執着を表す水の河が見えるのです。それまで旅人はそんなことを意識せず暮らしてきました。

ところが教えに出遇って道

を歩もう、西に進もうと決めた瞬間に初めて自分の欲望や、誘惑してくるものに囲まれていたということがはつきりと感じえてきたのです。

自分自身が真剣に人生を歩もうと決めた時、自分の立っているところが見えた。さらに進もうとする方向がいかにも大変であろうとも歩むのだと決心するという点が冒頭の要点なのだとお話しくださいました。

聴聞して

教えに出遇い浄土に生まれたいと決心することでこれまで見えていなかった様々なことが見えてくる。

そしてそこからまた新たに歩み出すことができるのだと驚きをもって聞かせていただきました。(玉出宗順 記)

大阪探検

なかのしま こども本の森 中之島



吹き抜けの館内



青いりんご「永遠の青春」

2020年2月、大阪の文化・芸術の中心地である中之島に子ども図書館が開館しました。子どもたちに多様な本を手にとってもらい、世界には自分と違う人や暮らしがあることを知ってほしいという想いでつくられた文化施設です。

本の魅力を知る

この施設は、大阪出身の建築家・安藤忠雄氏の寄附、設計によって建てられました。そこには、これからの社会を担っていく子どもたちに、幼い頃から本に触れ、豊かな感性や想像力を育んでほしいとの想いが込められています。

現代はインターネットやソーシャルメディアで多くの情報や感情が流れ、人に替わってAIが

ものを考える時代へと突き進んでいます。そんな時代だからこそ自発的に本を読む世界を提供してくれる場所なのです。

さまざまな工夫

三階建てで、壁一面に子ども向けの本が並べられています。平置きにした本も多く、子どもが目についた本を手にとって、自分の好きな場所で読めるように工夫されています。

本は、12のテーマに分類されています。その一つに「生きること／死ぬこと」があります。子どもにとって、最も遠いものである「死」を意識することで、逆に生きていることを実感してもらうために、前向きな一冊として包み隠さず子どもたちに届けるというコンセプトだそうです。大変興味深いコーナーでした。

本の貸し出しはありませんが、館内はもちろん、手続きをすれば図書館がある中之島公園内に限り、外での読書も楽しめます。またどなたでも安心して利用できるよう館内設備も充実しています。なお入館には事前予約が必要です（当日先着入場枠もあり）。詳しくはHPで確認してください。

（門川崇志）

お店を訪ねて

石留石材株式会社（藤井寺市）

石留石材は、大正3年に西国三十三所第五番札所である葛井寺かさいでらの西門前で創業しました。

これまでに国会議事堂（大規模修繕）や東京スカイツリーといった建築物の石工事を施工した実績があり、その技術を生かして1万5千組以上の墓づくりにかかわってきました。今回は5代目社長である田中祥元よしゆきさんにお話を伺いました。

誇る技術

「石留石材さんの誇る技術は？」とお聞きしたところ、「自社職人がいること」と即答でした。そして「お客様のために一緒になり、より良い方法を模索・実行してくれる自社職人の存在は私にとって、石留石材にとって誇れる技術そのものです。自社ですべての加工ができるからこそ、お客様のご要望にお応えすることが可能なのです」と。



本社前にて社長と社員の皆さん

心がけていること

墓石のお仕事で大切にしていることについては、「お客様が話しやすい状況をつくることを心がけています。お客様が故人に対してどのような想いがあるとお墓の相談をされているのか、それがとても大事だと思わうかです」とおっしゃいました。

さらに「とはいえ、初対面の人に自分の胸の内をオープンにするのは

なかなか難しいものです。だからこそ、聞く側である私たちがお客様の話しやすい状況を整えるように、話し方から環境まで、日頃から意識しています」と。

お客様の不安を軽減できるように「お墓ディレクター一級」「石匠位」「墓地管理士」「終活カウンセラー」といった資格を取得されたそうです。

仕事と休日

近年は、地域の共同墓地を守る「墓地管理サポート事業」や、「永代供養付き樹木葬の開発・販売・管理」なども行い、多忙な日々を送る社長。休日に2歳のお子さんを連れてお出かけするのが何よりの楽しみだそうです。（隅谷俊紀）

■石留石材株式会社

〒583-0037

藤井寺市津堂2-9-29

電話 0120-53-5578

Fax 072-953-5579

大悲トピックス

■大阪別院孟蘭盆会



①本堂でのお勤め ②納骨堂前にて

8月13日、14日、15日の3日間、午後2時

より孟蘭盆会のお勤めをしました。

ようやくコロナ禍以前のようにおおぜいの方々がお参りくださるようになりました。猛暑日の中、本堂で熱心に聴聞されるご門徒に敬意を表します。

(大阪別院輪番 葦名彰)

■お悔やみ

謹んで哀悼の意を表します。

第五組・本光寺

善本和也様 (7月30日寂)

■法友会研修会

7月22日、大阪別院にて「佛光寺派の葬儀差定について」と題して、報恩寺住職で本山式務局長の寺田宗隆師に講義を賜りました。

最近はずべての儀式が簡素化されるなか、葬儀式をお勤めする意義を確かめることが大切だと学びました。

また、僧侶のための葬儀式の経本の整備をすることや、ご門徒遺族のために葬儀の手引きも必要でないかと提起されました。

(葦名彰)

■佛青懇和会研修会

7月30日、大阪別院にて隅谷俊紀師を講師に「音木の実技講習」についてご講義いただきました。

音木は、多人数で法要を勤める上で、お経のスピードを合わせるといふ非常に重要な役割を担っています。

それぞれがいつ現場に出ても音木を打てるよう本番のような緊張感を持ちながら、実演練習し、テクニックから小ワザまで教えていただき、とても身になる研修会となりました。

(中井翔隆)

真宗佛光寺派
如来寺
気がつけばいつも
お蔭さまのなか
芦屋市川西町8-6
住職 藤谷 信道

御本山  用達
株式会社 **川勝法衣店**
フリーダイヤル 0120-075-055
(〒600-8344) 京都市下京区花屋町通油小路東入
電話 (075) 371-0367(代)
FAX (075) 371-5088

創業100余年・お墓の専門店
石留石材 株式会社
土日祝もご相談いただけます (8時~17時)
 **0120-53-5578**
■本社：大阪府藤井寺市津堂2丁目9番29号

仏跡参拝なら専門旅行会社に
お任せ下さい!!
～歩もう仏陀の道のりを～
 株式会社 **モントラベル**
〒550-0013
大阪市西区新町1-8-1 行成ビル
お気軽にお問い合わせください
TEL. 06-6531-1344

お墓なんでも相談センター
とわ おも かたち かえ
永遠の想いを像に還るお手伝い
 **ヨシザワ**
株式会社吉澤石材工業所
フリーダイヤル **0120-49-1482**

浜屋は関西最大級の
お仏壇・お仏具・墓石・御寺院お仏具の
専門店です。
やすらぎの
世界を創る  **浜屋**
通話料無料/浜屋姫路本社フリーダイヤル
お問い合わせ
お申し込みは **0120-1616-94**
●受付時間/午前10時～午後6時30分

だいひ 絵日記

- 7月19日(金) 大悲の会編集会議(第55号読み合わせ)(オンライン会議)
7月22日(月) 法友会研修会
(佛光寺派の葬儀差定について、講師：寺田 宗隆 師) ①
7月30日(火) 佛青懇和会研修会(音木の实技講習、講師：隅谷 俊紀 師) ②
8月 2日(金) 大悲の会編集会議(第55号読み合わせ)(オンライン会議)
8月13日(火) 大阪別院盂蘭盆会(～15日)
8月23日(金) 大悲の会編集会議(第55号読み合わせ)(オンライン会議)
9月12日(木) さつき会研修会(観劇、花こぶし～親鸞聖人と恵信尼さま)
9月19日(木) 大阪別院彼岸会(法話：中井 翔隆 師)
9月22日(日) 大阪別院彼岸会(法話：長田 譲 師)
9月25日(水) 大阪別院彼岸会(法話：寿栄松 正顕 師)
9月25日(水) 大悲の会編集会議(第55号発送作業・第56号内容検討)
9月26日(木) 佛青懇和会研修会(声明講習、講師：山本 順 師)
(法友会=住職会、さつき会=坊守会、佛青懇和会=青年会)



協 賛

佛青懇和会

大阪教区の青年会
(会長：松野正暁)

協 賛

さつき会

大阪教区の坊守会
(会長：中井秀子)

協 賛

法友会

大阪教区の住職会
(会長：善本和彦)

創業安政3年
京 佛 具 調 進
森 田 屋

福野御佛具處

〒601-8424
京都市南区西九条猪熊通九条上る
tel. fax 075-691-8423

表具 **八木米寿堂**

御本尊掛軸修理 絵画、書の表装

〒600-8073

京都市下京区柳馬場通仏光寺上る

tel 075-351-2853 fax 075-352-3258

和奏の会 翠笛会

寺院のイベントに邦楽(尺八・
箏)出張演奏いたします。

曲目はリクエストできます。

事務局：阪南市新町 宝林寺

電話 072-472-1414

<http://homepage2.nifty.com/suiteki/>

法要のご案内

大阪別院報恩講

10月27日(日)午後2時

勤行(お勤め)

御親教(ご門主おことば)

複演(法話)

藤代 尚師

(鹿児島・清立寺)

宗務総長あいさつ

大阪別院輪番あいさつ

お寺の掲示板

ふじつの一日なんてない

毎日が尊い一日なのだ

編集秘話

「今年の夏も暑かった」。そんな暑い8月1日に甲子園球場が百周年を迎えました。元々は高校野球大会の開催を目的として作られたそうです。選手宣誓で甲子園を聖地と称え、これからも聖地であることを願っていますと。ドーム球場開催が囁かれる中、変わらぬ甲子園なのだと感動したことでした。(寿栄松)

編集後記

親鸞聖人は60歳の頃、関東から十余か国のさかいを越えて京都に向かわれました。そのご苦労をしのび、私自身、今年の1月から7月にかけて実際に歩いてみました。毎日続けて歩くことは、時間的にも体力的にも難しいので、何回かに分けてみました。その様子をまた皆さんにご報告いたします。(編集長・隅谷)

大阪教区・別院だより『大悲』第55号(秋号)
令和6年(2024年)10月1日発行(発行部数2200部)
発行:大悲の会
事務所:佛光寺大阪別院内
〒558-0011 大阪市住吉区苅田6-11-24 電話06-6691-1362
郵便振替口座:口座番号「00990-4-305218」加入者名「大悲の会」
ホームページ(HP) <http://daihi.org/> (ご意見・ご感想はHP内の「お問い合わせフォーム」より)

大悲の会
長田 譲(会長) 門川 崇志(監事)
隅谷 俊紀(副会長) 佐々木 太一
寿栄松 正頭(会計) 葦名 彰
玉出 宗順(会計) 中井 翔隆